

甚小だより



あま市立甚目寺小学校
19号
平成25年2月1日

甚目寺小学校は創立140周年

甚目寺小学校は明治5年（1872年）8月に、甚目寺義校としてスタートしました。そして、平成24年度（2012年）140周年を迎えました。子どもたちからは「ぼくのお父さんもおじいちゃんも甚目寺小学校の卒業生だよ」という話をよく耳にします。また、地域の方からは来校されるたびに、当時の学校の様子など懐かしい話を伺うことが多くあります。この歴史の重みを感じながら、ささやかですが140にちなんだ内容を運動会の「組み立て体操」で表現し、2月の「縄リンピック」の時には、特別種目が設定されました。また、学校全体では「航空写真」を撮り記念として残すことになりました。今回、児童全員に配布しましたクリアファイルは、表面が甚小の全景写真、裏面が全校児童・教職員の集合写真がプリントされたものです。（10月に撮影）



卒業前に知っておいてほしいと願い・・・

中学生へと成長するとともに行動範囲も広がり、よくないことに誘われ悩んだりすることも出てくると思います。自分の体を大切にする気持ちを高めてほしいと、24日（木）に6年生は、愛知県警察本部少年課の田中さんより「薬物乱用の怖さ」の話を聞きました。今の子どもたちには、身近に感じられないかもしれませんが、知識として知っておくことは、将来役に立つと考えています。

田中さんのお話で「薬物」の恐ろしさを改めて知ることができました。言われたように薬物の誘惑に負けないように、誘われたらきっぱり断りたいと思います。そして、自分が一番身近な「酒やたばこ」は、二十歳になってもやめようかなと思いました。

【渡辺一成さんの感想より抜粋】

薬物をやめても何年後、何十年後にフラッシュバックがおきたりして死ぬまで薬物の恐ろしさが続くので、一度すると一度ではすまないとわかりました。これから何年後どういう場面ですすめられるかわからないので、6年生の時、警察の人が言っていたこと思い出して断りたいなと思いました。

【森下涼音さんの感想より抜粋】

薬物にはたくさんの種類があると聞き、おどろきました。ビデオでは、少しの好奇心で、脳・体・心がボロボロになるのを自分に重ね合わせて見ていると、とても恐ろしく感じました。前までは、そんな薬物なんて関係ないと思っていました。ですが、この話で薬物は、すごく身近にあることを知りびっくりしました。僕の夢は、サッカー選手です。その夢やこれからの人生を無駄にしないようにしたいです。

【齊藤泰征さんの感想より抜粋】

算数の授業における言語活動の充実



解法の確かさを確認

本校では、算数科における授業改善の取り組みを続けています。1年は、複数教師による指導で進め、2年以上は、少人数指導で進めています。授業内容についても、自分一人で解く時間を大切にするとともに、自分の考えを説明できるように、様々な手立てを行っています。例えば、一人解決の時間は、教師は子どもたちの席をまわり、○をつけたり解決のアドバイスをしたりします。これによって自信をつけた子どもたち



隣同士での解法の説明

の発言は、根拠をともなった内容になっています。29日は、4年2組で「分数」の研究授業を行いました。一人解決の後には、隣同士で解法の説明をしあいます。そして、全体の場で解法の説明を聞き、より早く、正確な導き方を追究する授業形式で進めています。本校では、この一人解決や解法の説明をすることが算数科の言語活動ととらえています。